

しまだ せいじろう
島田 清次郎

○プロフィール

島田清次郎は、大正時代の作家で、明治 32 年 2 月、美川町字南町で生まれました。

船乗りの父を 2 歳で失うという不幸に見舞われ、5 歳の時に母方の親戚を頼って、金沢市へ転出し、文学活動に励む日々を送りました。

金沢でも貧困な生活は続きましたが、学業成績は常に上位にランクされ、文学に関心を持ち、弱冠 20 歳の時に発表した小説「地上」が各方面から絶賛され、その後次々と作品を発表、裕福な生活を送れるようになったのもつかの間、尊大な態度や奇行が目立ち、作家活動が行えなくなり生活は再び困窮、昭和 5 年 4 月、31 歳の若さで失意のうちに夭折しました。

国際ペンクラブ、日本人初の会員です。

○年 譜

明治 32 年（1899）2 月 26 日、美川町南町^{みかわ}で生まれる。

父「常吉」、母「みつ」の長男

明治 34 年（1901）2 歳の時、父常吉（29 歳）が海難事故で死亡する。

同 37 年（1904）5 歳の時、母に連れられ、金沢へ出る。

大正 3 年（1914）15 歳で書いた「若芽」が、最初の小説と思われる。

同 4 年、母を頼り上京するが、長編小説が認められず、自殺未遂をする。

同 5 年、母と二人で、金沢へ帰る。

同 6 年（1917）18 歳で自伝的小説「死を超ゆる」を発表、好評を得る。

同 7 年、「地上」の執筆を始める。

大正 8 年 (1919)、評論家「生田長江」が「地上」を激賞、新潮社から
刊行される。

同 9 年 (1920)「地上」第 2 部を刊行され、清次郎はヒーローとなる。

同 10 年、「地上」第 3 部を刊行。諸先輩に大言壮語し孤立、反感が強まる。

同 11 年 (1922)「地上」第 4 部を刊行。小林豊と結婚。全国に講演旅行する。

清次郎ブームが起こる。米・英・独・仏・伊を視察旅行。(23 歳)

「地上」総売り上げ 50 万部を突破。妻実家に帰り、長男を出産。

同 12 年 (1923) 文壇での批判が高まる。舟木事件が起こる。(24 歳)

同 13 年、金銭に困窮。警察に逮捕される。精神が不安定になる。

昭和 3 年 (1928) 作品が発表され、健全ではないかと、話題になる。

同 5 年 (1930) 肺結核が悪化し、4 月 29 日逝去。(31 歳)

同 7 年、母「みつ」が 56 歳で逝去。

同 20 年 (1945) 長男「良輔」が 22 歳で逝去。

同 32 年 (1957)「地上」が大映で映画化され、芸術祭参加作品となる。

同 37 年 (1962) 清次郎の生涯をモデルにした小説「天才と狂人の間」で
作家「杉森久英」氏が直木賞を受賞。

同 62 年 (1987) 美川墓地に島清文学碑が建立される。